

令和4年度教育委員会点検評価報告書

(令和3年度分)

雲南市教育委員会

目 次

1. 令和3年度 教育委員会の活動状況	
(1) 雲南市が目指す教育	2
(2) 令和3年度の新たな事業	3
(3) 教育委員会の運営・活動	5
2. 点検評価に当たって	
(1) 点検評価の対象	5
(2) 点検評価の方法	5
3. 令和3年度 教育委員会点検評価	
はじめに	7
基本政策1 雲南市教育の推進体制の構築	7
基本政策2 「生きる力」を育てる学校教育の推進	8
基本政策3 心豊かでたくましい人づくりを目指した社会教育の推進	10

1. 令和3年度 教育委員会の活動状況

(1) 雲南市が目指す教育

令和元年度に策定した「第4次雲南市教育基本計画」では、雲南市が目指す「教育の基本目標」を継承し、次の3点を基本政策としています。

- ① 雲南市教育の推進体制の構築
- ② 「生きる力」を育てる学校教育の推進
- ③ 心豊かでたくましい人づくりを目指した社会教育の推進

この基本計画に基づき、令和3年度は前年度を踏襲し、各基本政策について次のとおりの重点施策を掲げ、各種の具体的事業に取り組みました。

基本政策1 雲南市教育の推進体制の構築

- 開かれた教育行政の推進
- 地域の実情等に応じた教育環境の整備
- 地域全体で教育に取り組む仕組みづくり

基本政策2 「生きる力」を育てる学校教育の推進

- 「夢」発見プログラム（雲南市キャリア教育推進プログラム）の推進
- 幼児教育の充実
- 確かな学力の育成
- 豊かな心の育成
- 健やかな体の育成
- 人権・同和教育の充実
- 特別支援教育の充実
- 不登校児童生徒への対応の充実
- 中学校区内の連携・交流の推進

基本政策3 心豊かでたくましい人づくりを目指した社会教育の推進

- 社会教育推進体制の構築
- 地域自主組織との連携
- 青少年の健全育成の推進
- 地域の子育て支援の充実
- 図書館サービスと読書活動支援の充実

- 人権・同和教育の推進
- 文化活動の推進
- 文化財の保存と活用
- 生涯にわたって親しむスポーツ活動の推進
- 社会教育施設の整備・運営

(2) 令和3年度の新たな事業

① 児童福祉総務管理事業

寺領小学校体育館2階ミーティングスペースを中心に実施していた寺領児童クラブを日登交流センター内に移設しました。

② 加茂こども園保育業務委託事業

新たな公立保育所保育業務委託計画（平成30年度策定）に基づき、令和3年4月より雲南市立加茂こども園の運営を市内社会福祉法人に委託しました。

【委託先】社会福祉法人 たんぼぼ

③ 地域とともにある学校づくり推進事業

コミュニティスクールを基軸とした地域とともにある学校づくりの推進のため、学校と地域の創意工夫による地域（中学校区）ごとの実情に応じた教育活動（「夢」発見プログラムの推進や特色あるふるさと教育活動など）に取り組みました。

また、地域と学校のつながりづくり、地域学校協働活動の推進を担う地域コーディネーターを配置しました。

【主な教育活動】

- ふるさと教育の推進
 - 「夢」発見プログラムに基づくキャリア教育の推進
 - コーディネーターの配置
 - 教育委員会職員の校区担当制の実施
 - 学校運営協議会の開催
- ### ④ いじめ・不登校防止対策推進事業

いじめ防止対策推進法の規定に基づき、市内の小中学校に在籍する児童生徒のいじめの防止や早期発見、対処等の取組みを協議する「雲南市いじめ問題対策連絡協議会」の

設置をはじめ、重大事態が発生した場合に事実関係を明確にするための調査を行う「雲南市いじめ問題対策委員会」を設置し、それぞれ第1回の会議を開催しました。

⑤ 公立学校情報機器整備事業（令和2年度繰越事業）

国が進める「GIGA スクール構想」に基づき、児童生徒1人1台の学習用タブレット・ソフトウェアの整備、関連する環境（サーバ・校内ネットワーク）等の整備を行いました。

⑥ 児童生徒タブレット活用推進事業

学習用タブレットを日常的に利用できるように、GIGA スクールサポーターを配置し、導入に係る相談業務・マニュアル・ルールの作成、タブレット活用に向けての教員研修等を実施し、デジタル・シティズンシップ教育の推進を図りました。

⑦ 雲南コミュニティハイスクールコンソーシアム補助金

多様性ある学びの環境づくりのため、雲南コミュニティハイスクールコンソーシアムに高校生の地域留学（※1）のための補助金を交付しました。

（※1）高校生の地域留学…高校生が在学する高校とは別の地域の高校において1学年を過ごすこと

⑧ 永井隆記念館管理事業

令和元年6月から現地建替工事のため長期休館していた雲南市永井隆記念館について、令和3年4月18日に竣工式及び記念行事を開催し、20日にリニューアルオープンしました。

⑨ 小中学校教育振興総務管理事業（小中学校スポーツ・文化活動の振興）

小中学生のスポーツ・文化活動の振興を図るため、小学校においては遊具の設置や修繕、その他体育や文化活動に資する備品等の購入、中学校においては部活動で使用する備品（スポーツ用品、楽器等）の購入や体育用設備等の修繕を実施しました。

⑩ 感染症対策等の学校教育活動継続支援事業（令和2年度繰越事業）

感染症対策や児童生徒の学びの保障を行うため、国の「学校保健特別対策事業費補助金」を活用し、小中学校における新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」という。）拡大防止対策に資する消耗品や備品を購入しました。

(3) 教育委員会の運営・活動

① 総合教育会議

1回開催し、次のことを協議しました。

・雲南市の教育大綱の制定について

⇒ 引き続き、第4次雲南市教育基本計画を教育大綱と位置付ける。

・市長から雲南市教育に対する思いを話してもらった後、「小規模を活かした学校づくり」について、意見交換を行い、今後の教育のあり方について協議しました。

② 定例会、懇談会、臨時会

次ページ掲載資料のとおり実施しました。

③ 教育委員による学校訪問・各種行事への参加

・学校訪問等

校長が新たに赴任した学校10校を訪問しました。各学級を巡り、ICT機器を生かした学習の様子やコロナ感染症拡大防止対策を視察しました。その後、各校の学校経営や地域との関わりについて意見交換を行いました。

・各種行事への参加

コロナ感染症の影響で各種行事が中止となったため、参加をしていません。

④ 視察研修

コロナ感染症拡大防止の観点から視察研修は実施しませんでした。

2. 点検評価に当たって

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、平成20年度から毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理執行状況について、点検及び評価を行い、その結果を報告書として議会に提出するとともに、市民の皆様へ公表することとされています。

(1) 点検評価の対象

今回の点検評価は、令和3年度の重点施策に基づき実施した各種事務事業を対象としました。

(2) 点検評価の方法

行政評価における「施策マネジメントシート」及び「事務事業マネジメントシート」をふまえて、教育委員会で、必要性、効率性、有効性、公平性等の様々な観点から分析し、成果や課題、今後の改善点について点検評価することとしました。

資料

教育委員会の活動					
(1) 会議・活動の開催状況					
項目	単位	令和3年度	令和2年度	増減	事業内容
定例会	回	12	12	0	毎月1回開催
臨時会	回	1	1	0	必要に応じ開催
懇談会	回	4	6	▲ 2	必要に応じ開催
傍聴者数	人	0	1	▲ 1	
総合教育会議	回	1	2	▲ 1	
視察研修	回	0	0	0	必要に応じ実施
(2) 審議の状況					
項目	単位	令和3年度	令和2年度	増減	事業内容
定例会審議案件	件	96	83	13	
報告事項	件	22	23	▲ 1	
承認事項	件	12	5	7	
審議事項	件	29	19	10	
協議事項	件	1	0	1	
教育長報告	件	32	36	▲ 4	
臨時会審議案件	件	1	1	0	
懇談会協議件数	件	4	8	▲ 4	
(3) 定例会・臨時会・懇談会以外の活動状況					
項目	単位	令和3年度	令和2年度	増減	事業内容
学校訪問	件	6	11	▲ 5	

3. 令和3年度 教育委員会点検評価

はじめに

昨年度に引き続き、コロナ感染症拡大防止対策上、計画した事業が実施できなかつたり、新しい生活様式への対応を求められたりした年度でありましたが、工夫しながら、着実に課題が解消されており、限られた予算の中で、公平・公正な事業展開がなされたと考えます。

また、地域学習等の取組みにより、「地域が好きだ」という児童生徒が増加傾向にあり、将来の雲南市を担う人材育成に関して一定の成果を上げていると考えます。

基本施策1 雲南市教育の推進体制の構築

- 地域とともにある学校づくり推進事業については、令和元年度にコミュニティースクールが全中学校区に配置され、学校・家庭・地域が一体となって教育を担う体制が整いました。7つの学校運営協議会では、めざす子ども像の共有や地域の教育課題について協議するなど円滑な運営がなされ、各中学校区で特色のある取組みが推進されています。一方で、市民への理解浸透が今ひとつであり、より多くの市民をコミュニティスクールの活動に巻き込む手立てが必要と考えます。
- 教育魅力化推進事業については、高校に配置されたコーディネーターや統括プロデューサーの尽力により、雲南コミュニティハイスクールコンソーシアムを基軸に雲南式探求プログラムをはじめ官民協働による魅力ある教育環境づくりが推進されました。一方で、市民への浸透については不十分であり、さらなるPRの強化が必要だと考えます。
- 市内高校の定員割れが常態化しており、3校の存続問題が近い将来出てくる可能性があります。市も積極的に3校の運営に参画して、生徒数増に繋げることが必要だと考えます。
- 小中学校施設整備事業については、小・中学校の校舎の耐用年数が来ているものがあるので、計画的に改築の計画を立てる必要があると考えます。小中一貫教育を校舎改築と繋げて進めることも一つの方法だと考えます。
- 学校給食管理運営事業については、学校給食で使用される野菜は、地元野菜が優先的に購入され、その割合も高まってきており、安心・安全な給食提供に繋がっている

と考えます。給食センター、受託業者の真摯な取組みにより衛生管理も徹底され、異物混入件数も減少しており、引き続き、緊張感を持って取り組む必要があります。また、学校、給食センター、地元の野菜生産者の連携により、食育の推進がより一層図られることが期待されます。

- 教材備品整備については、児童生徒が減少していく中、校務用タブレット等を活用し、備品の保管場所・使用日時を把握して、学校間での貸し借り等により活用効率を上げることで、同じ予算でも質の高い備品を整備することも今後検討する必要があると考えます。
- スクールバスの運行については、遠距離通学の児童生徒のために必要であり継続が必要と考えますが、今後児童生徒数が減少することをふまえ、市民バスとの共用を模索し市有財産の効率的な活用を検討する必要があると考えます。

基本施策2 「生きる力」を育てる学校教育の推進

- 「夢」発見ウィーク事業については、当市のキャリア教育を特色づけるものであり、生徒にとっては、自分の将来を考える、また、自分の住む地域を実感できる大切な機会となっています。令和3年度はコロナ感染症拡大防止の観点から、活動範囲を市内全域から中学校区内の事業所での体験となりましたが、生徒たちにとっては自分の住んでいる地域への理解が深まり、事業所にとっても身近な中学校の生徒たちの実態への理解が深まるなどの効果があったと考えます。今後も事業者の負担にならない程度で、生徒がより多様な体験ができるよう協力事業所の拡大が望まれます。また、円滑な事業運営がなされるよう、地域と学校の平素の連携が重要と考えます。
- 「夢」発見プログラムは、持続可能な地域づくりという市の課題解決のための施策として重要であり、その人材育成には必要不可欠な施策であると考えます。さらにそれぞれの事業を推進することによって、将来雲南市に残り、雲南市を担っていく「自立した社会性のある大人」を育成する効果が期待できると考えています。
- 外国語教育支援事業については、従来の小学校英語教育推進事業と外国青年招致事業とを一体化したものであり、今般の国の外国語教育の流れと合致したものであると考えます。本市外国語教育の一層の充実のため、教員研修の充実はもとより、ALT確保や教材・指導機器充実のための予算拡充が必要であると考えます。
- 小学校英語教育推進事業については、小学校5、6年生で英語が教科化され一年経

過しました。これまで現場を支援するために継続してきたALTの配置や外国語教育担当教員の配置は評価できるものと考えます。

- 学校図書活動充実事業については、学校図書館活動を充実し、読書の推進を図り、児童生徒が自ら学ぶ意欲や探究心、豊かな感性の育成に果たす図書館の役割は非常に大きいので、今後も引き続き、学校司書の配置校の増加に取り組む必要があると考えます。
- 部活動地域指導者活用支援事業については、部活動の充実や教職員の負担軽減等に資する事業であり、その継続・拡充が必要であると考えます。指導者が安心して指導できるよう、研修の充実や学校・関係団体と緊密に連携し、社会教育とのつながりも視野に入れて、その環境整備を進めていく必要があります。その際、本市の体育館・ホール施設の指定管理者との情報交換も必要になると考えます。
- 子ども家庭支援センター運営事業及びすワン学習塾まなびい運営事業については、幼児期からの支援を含め、困難を抱えた子どもへのきめ細かな支援が充実してきています。子ども家庭支援センターは、子育ての総合相談窓口として、また特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への支援機関として、大切な役割を果たしており、さらなる体制強化が必要だと考えます。
- おんせんキャンパス運営事業については、おんせんキャンパスが当市における不登校、不登校傾向にある児童・生徒が高止まりの実態をふまえ、児童・生徒の学習支援や体験活動、さらには保護者支援にきめ細かく取り組んでおり、児童・生徒の成長に大きな役割を果たしていると評価できると考えます。また、おんせんキャンパスでは、将来的なひきこもりを予防するため、高校生年代を対象とした支援にも取り組んでいるため、その役割はますます大きくなっており、こうしたことに伴う体制の強化が必要だと考えます。
- スクールソーシャルワーカー活用事業については、困難さを抱える児童・生徒とその保護者が安心して家庭・学校生活を送れるよう、市単独でスクールソーシャルワーカー1名を配置し、県委託事業の1名との2名体制で取り組んでいることは評価できると考えます。学校現場との密接な連携により、より活用が進むような取り組みが必要であると考えます。
- 雲南市は6町が対等合併して20年近く経過する市です。よい面も悪い面も持ちながら、まだ旧町村の意識が残っています。この辺りで市全体を見渡したまちづくりの

一環として、教育施設、学校についても検討する必要があると考えます。

- 内部の教育の質の向上や充実も進めつつ、都会の保護者や子どもたちなど外部に向けて発信できる魅力ある教育を進めることが大切ではないかと考えます。住みよい田舎日本一になったのですから、市外から転入者が増えるようなアピールを工夫する必要があると考えます。
- 不登校児童生徒が増加してきていますが、この対策として就学前の家庭での躰・教育も重要だと考えます。子育て家庭への教育・啓発を充実して、社会に適応できない子ども・不登校児童生徒の減少を目指す取組みが必要と考えます。また、親学プログラムをさらに充実させ、家庭における教育力の向上を推進することが、不登校児童生徒の減少に寄与すると考えます。
- 学力育成強化事業（スーパーティーチャー活用事業）については、教職員の授業力を高め、児童・生徒の学力を向上させるために、スーパーティーチャーを活用した授業指導などに取り組んでいますが、その効果が学校全体へ浸透するようにしていく必要があると考えます。

基本施策3 心豊かでたくましい人づくりを目指した社会教育の推進

- スペシャルチャレンジ・ジュニア事業について、プログラム参加者や補助金応募者が増加していることは評価されるべきであり、今後も事業のさらなる活性化によって、主体性をもった子どもたちを育成する効果が期待できると考えます。
- スペシャルチャレンジ・ジュニア事業と中高生の！幸雲南塾事業、この2つの事業は、地域への愛着を育み、当市の未来を担う人材を育成する上で、特色ある重要な事業であり、継続した取組みが必要と考えます。また、参加した児童・生徒が安心して取組み、成長できるよう丁寧できめ細かな支援体制が必要だと考えます。
- 放課後子ども教室事業については、地域との協働で実施できていますので、今後は要員の確保が課題となると考えます。
- 家でも学校でもない第三の居場所事業については、支援の必要な児童のために継続が必要と考えます。
- 永井隆顕彰事業については、資金面や市民の関心喚起など課題が出ていましたが、永井隆記念館のリニューアルを機に活性化が図られましたので、さらなる平和教育の発信拠点としての役割が期待できると考えます。また、永井隆博士の「如己愛人」の

思想を「思いやり」等人権教育に生かすなどの普及啓発も必要と考えます。

- 人権同和教育推進協議会補助金については、人権問題に対し、知的理解は深まっていますが、人権感覚は十分に身につけていないとの評価が示されています。人権感覚を養うことは幼少期からの教育が肝要ですので、教育現場での継続した人権同和教育をさらに進めることが必要と考えます。
- 市内に多数の社会体育施設がありますが、老朽化が著しく、すべての施設を修繕するには多額の経費が必要となります。例えば、中核となる施設に集中的に予算を充て、全国規模の大会でも開催できる環境づくりをするなど、市全体のバランスを見ながら施設の整理・統合を検討する必要があると考えます。
- 雲南市は社会教育が充実しています。内向きの成果を誇るのではなく、外向きに成果を発信し、市外からの児童、生徒の受入の推進に繋げる必要もあると考えます。
- 市内には加茂岩倉遺跡や菅谷たたら山内など貴重な文化財が多くあり、観光資源としてだけでなく、児童生徒の学習にも最適な教材ですので、ふるさと学習に有効活用することが必要であると考えます。
- 国民スポーツ大会（島根県大会）に市民の中から選手として出場できるよう育成に努める必要があります。また、子どもたちにはそれを目標に、スポーツに親しむ機会や指導者の確保等の環境も整える必要があると考えます。